

「専門職向けのACCP普及 啓発の取組について」

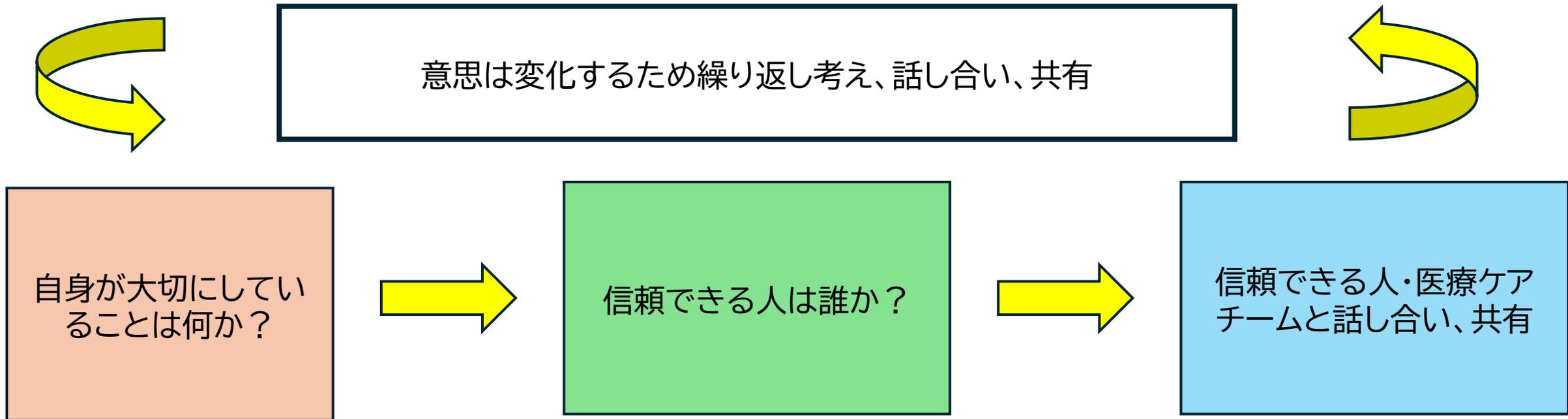
宮城県東部保健福祉事務所(石巻保健所)

高齢者支援班 技師 稲林 奈々子

ACP(アドバンス・ケア・プランニング)とは



- ・もしもの時のために自らが望む医療やケア・価値観について前もって考え、家族や医療ケアチーム等信頼できる人たちと**繰り返し話し合い、共有するプロセス**のこと。



目次

- 1 地域の現状
- 2 圏域でACPを進めるための課題
- 3 専門職向けACP普及の取組
- 4 今後に向けて

目次

1 地域の現状

2 圏域でACPを進めるための課題

3 専門職向けACP普及の取組

4 今後に向けて

圏域の医療機関から



・救急搬送される高齢者は、多くの場合、生命の危機に直面しており、家族が心肺蘇生や人工呼吸器の選択を求められて困惑することが多い。

・本人と家族でACPについて話していたとしても、緊急事態には第三者(遠い親戚)が間に加わることも多く、本人・家族の望み通り、進んでいるとは言いづらい。

在宅医療・介護連携推進事業

市町村が実施する
地域支援事業の1つ

医療と介護の連携が求められる
4つの場面



看取りの場面のめざすべき姿

- 地域の住民が、在宅での看取り等について十分に認識理解する。
- 医療・介護関係者が、対象者本人と人生の最終段階における意思を共有し、それを実現できるように支援する。

都道府県では、
市町事業を広域的・補完的に支援する

市町での取組

住民に最も近い実施主体

住民へのアプローチ

- ・市民講座、出前講座
- ・ACPや意思決定に関する自身の思いを書き留めるツール



多職種連携

- ・研修会
- ・会議
- ・情報共有ツール、ICT



目次

1 地域の現状

2 圏域でACPを進めるための課題

3 専門職向けACP普及の取組

4 今後に向けて

看取りの場面の
進捗状況が分からない



ACPがどの程度取組ま
れているのか？

圏域で進めるために…

地域住民

+

専門職

ACPの理解度や取り組む上での課題の把握

ACPの理解のレベルをあげて目線を揃えることが必要

目次

- 1 地域の現状
- 2 圏域でACPを進めるための課題
- 3 専門職向けACP普及の取組**
- 4 今後に向けて

当所での取組

多職種連携・圏域内の
情報共有

1. 取組状況調査

現状把握

関係機関へのヒアリング

「石巻・登米地域の在宅医療・介護関係機関におけるACPの
取組状況調査」

2. ACP研修会

理解促進・取組のきっかけづくり

「在宅医療・介護連携推進研修会」

3. 市町担当者との会議

市町との連携

1. 現状把握

関係機関へのヒアリング

意見

- 健康なうちからACPについて考えるために住民へのACP普及が必要。
- ACPを確認するタイミングが難しい。本人の状態が悪くなってからだと、本人が話せる状況ではない。
- 病状について医師から説明を受けたとしても、医師と本人・家族との間で認識のズレがある。
- 職員の業務負担軽減のため加算を利用し看取りに対応している。
- 医師、職員の人手不足。

1. 現状把握

【 ACP取組状況調査概要 】

目的	<ul style="list-style-type: none">・石巻・登米圏域(石巻市、登米市、東松島市、女川町)在宅医療・介護関係機関のACPの取組状況、課題を把握する。・今後の圏域の取り組みを検討する。
対象施設 【371か所】	診療所／病院／訪問看護事業所／居宅介護支援事業所／ 地域包括支援センター／介護老人福祉施設／地域密着型介護老人福祉施設／ 介護老人保健施設／有料老人ホーム／サービス付き高齢者向け住宅／ 認知症対応型共同生活介護(グループホーム)／軽費老人ホーム(ケアハウス)
期間	①令和6年12月から令和7年1月まで 石巻圏域(石巻地区対で実施) ②令和7年6月から令和7年7月まで 石巻・登米圏域

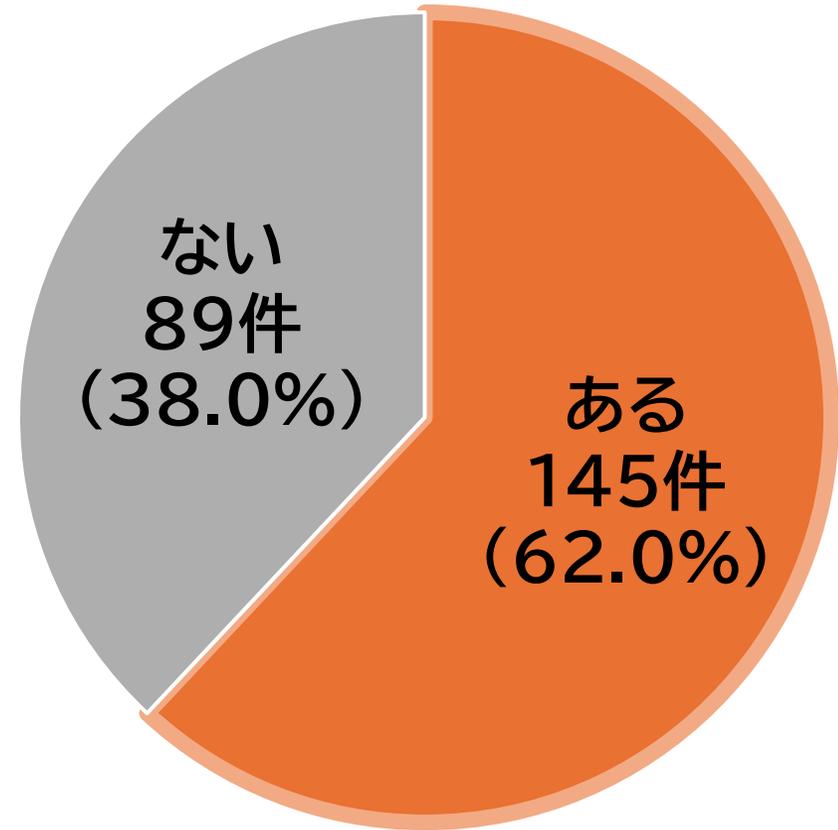
※①の期間:【石巻圏域】診療所／病院／訪問看護事業所／居宅介護支援事業所／地域包括支援センター
②の期間:【登米圏域】診療所／病院／訪問看護事業所／居宅介護支援事業所／地域包括支援センター
【石巻・登米圏域】高齢者施設

調査結果①

看取り期の方の支援

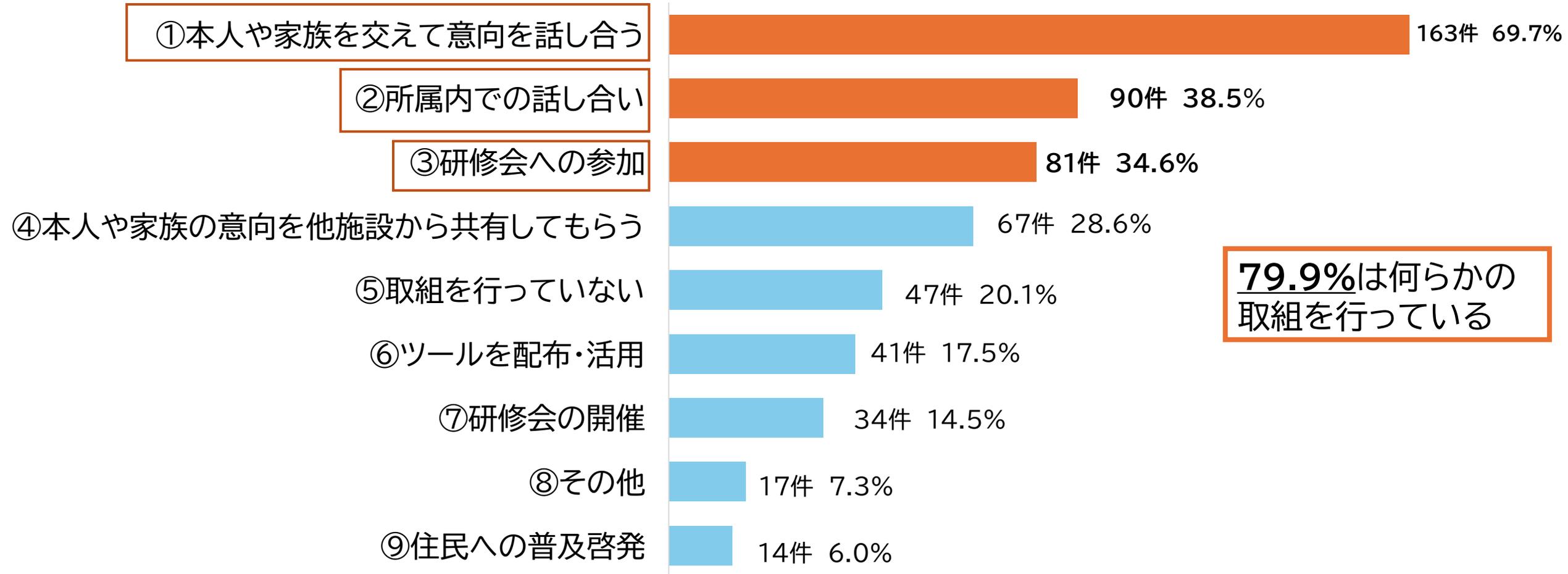
看取りの時期の方を支援することはありませんか(N=234)

調査対象 施設数	回答 施設数	調査対象施設総数 の回答率(%)
371	234	63.1



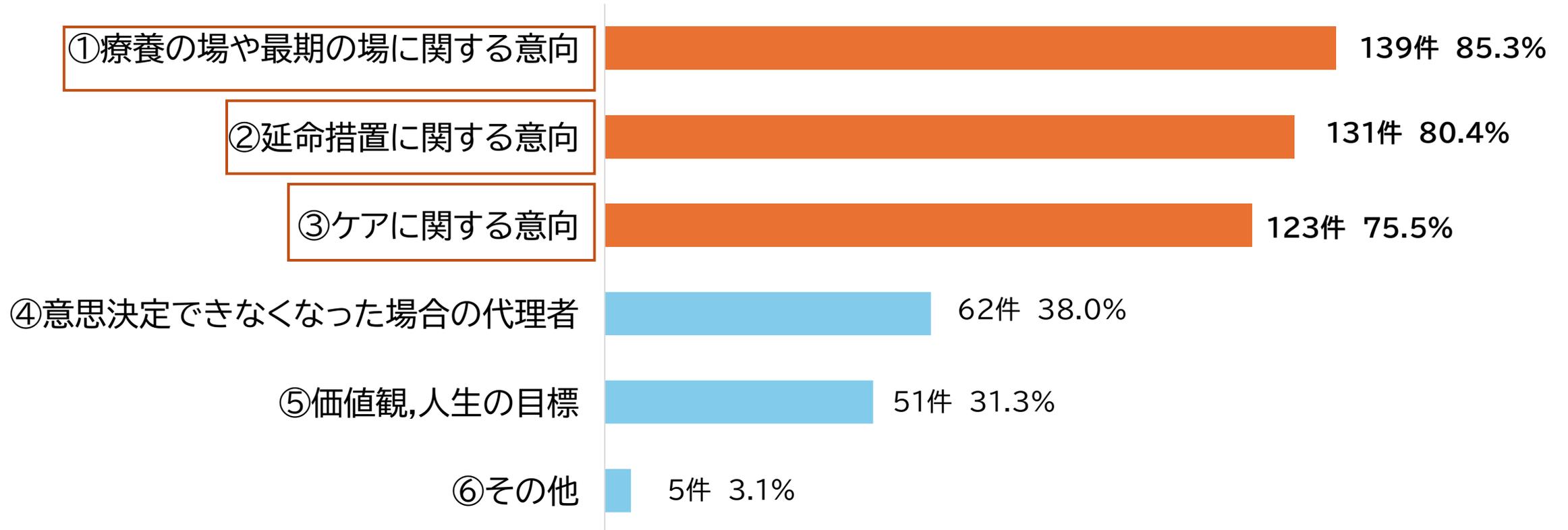
調査結果②

ACPに関する取組（複数選択可） N=234



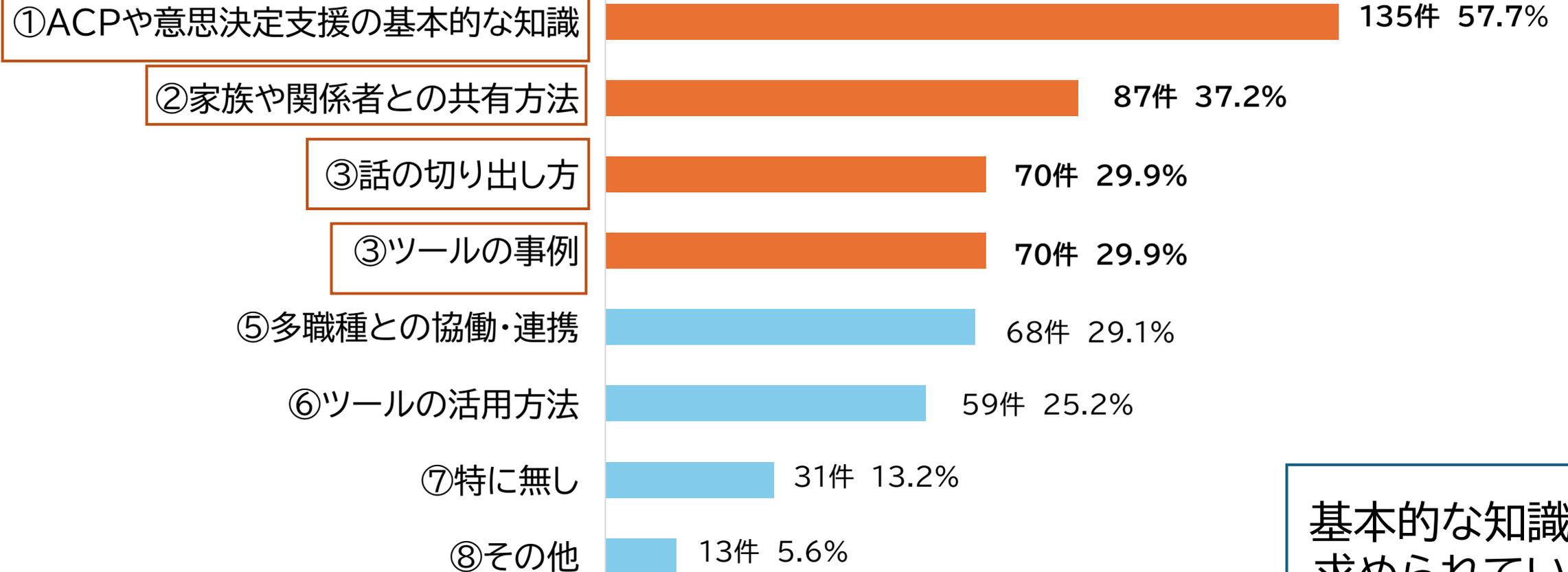
調査結果③

「①本人や家族を交えて話し合う」内容について（複数選択可） N=163



調査結果④

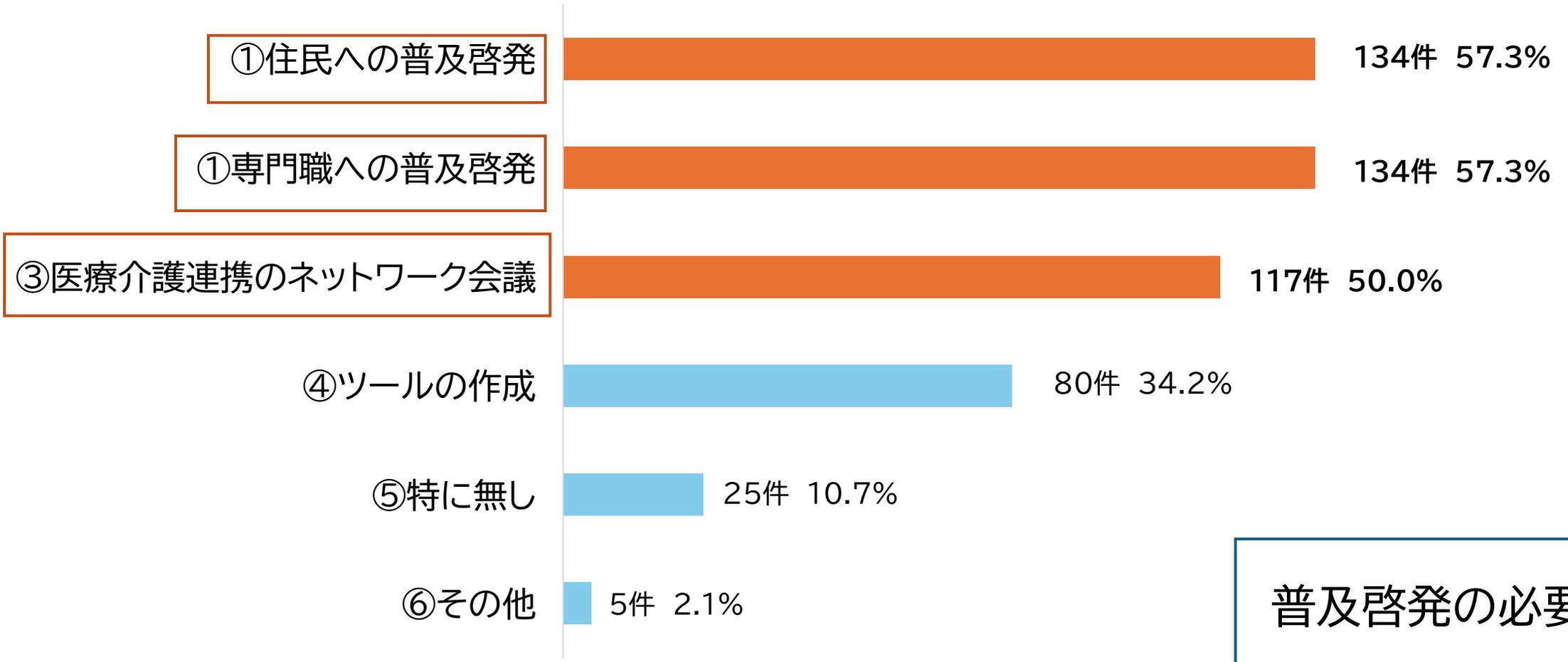
ACPについて今後知りたいこと（3つまで選択可） N=234



基本的な知識が
求められている

調査結果⑤

石巻・登米圏域全体で必要な取組（3つまで選択可） N=234



調査結果⑥ 課題

自由記述をカテゴリーで分類したもの

課題	内容
①意思決定の難しさ	・本人より家族の意向が優先 ・意向確認のタイミング
②ACPの理解・知識不足	・研修不足 ・職員のスキル不足
③施設間連携・情報共有不足	・医療機関と介護施設間での連携 ・多職種との情報共有
④地域への啓発活動	・地域住民のACP理解不足 ・ACPに対する抵抗感
⑤施設の体制・環境に関する課題	・マンパワー不足 ・施設内の方針が整っていない

調査結果をうけて

元気なうちからACP

基本的な知識

普及啓発

が求められている



- 自施設での普段の支援や関わりについて振り返る機会の1つとなった
- 住民および専門職へのACP普及啓発は引き続き必要
- ACPを実施する上での課題や困ったことがあがったが、工夫している面も多くあった

2.理解促進・取組のきっかけづくり

【ACP研修会】



目的	石巻・登米圏域の在宅医療・介護連携の機運醸成を図る上で、在宅医療・介護関係職員がACPについての理解を深め、各施設での取組のきっかけづくりの場とする。		
対象	医療・介護関係職員、市町担当課職員		
日時	①令和7年2月20日(木)	②令和7年9月26日(金)	③令和8年2月27日(金)
場所	石巻合同庁舎(61人)	登米合同庁舎(44人)	石巻合同庁舎
内容	(1)ACPの取組状況調査結果 (2)講話 講師:君津市国保小櫃診療所 所長 (3)事例紹介 講師:病院看護部長	(1)ACPの取組状況調査結果 (2)講話 (3)グループワーク	(1)講話 (2)ロールプレイ

アンケート結果

R7.2.20

- どのようにACPを進めていいかわからない状況であったため、段階を経ることやきっかけづくり等参考になった。
- ACPは、書面にすることではなく、なぜそう考えたのかを確認し、共有しておくことが大切なことがわかった。



R7.9.26

- 施設内でACPの導入についての話があがっていたが「どうすれば？」と足踏みしている状態だったが、今回のお話を受け自施設に何が必要かを考え本人・家族・多職種を含め対応したいと思いました。
- 本人の立場になってどうこたえるか、自分の考えでなく、本人の考え「本人だったらどうこたえるか？」という視点が大切ということを学びました。
- ACPの考え方について体系的に学びなおしができた。施設内でも伝達講習を行い、周知していきたいと思う。



3.市町との連携

市町担当者との会議

目的:

市町担当者を集め、現状や課題を共有することで、円滑な連携体制を構築し、各事業の推進の一助とする。



• R7.4.23

令和7年度東部管内地域包括ケア・認知症担当者情報交換会

• R8.1.26

令和7年度在宅医療・介護連携推進事業に関する管内市町担当者意見交換会

目次

- 1 地域の現状
- 2 圏域でACPを進めるための課題
- 3 専門職向けACP普及の取組
- 4 今後に向けて

R7市町の在宅医療・介護連携推進事業の取組

取組が促進している

	R5→R7取組内容			
	石巻市	登米市	東松島市	女川町
地域の医療・介護の資源の把握	○	○	○	○
在宅医療・介護連携の課題の抽出	○	○	○	○
切れ目のない在宅医療と在宅介護の提供体制の構築推進	○	○	○	×
医療・介護関係者の情報共有の支援	×→○	○	○	×→○
在宅医療・介護連携に関する相談支援	○	○	○	○
医療・介護関係者の研修	○	○	○	×→○
地域住民への普及啓発	○	○	○	○

HPに情報掲載

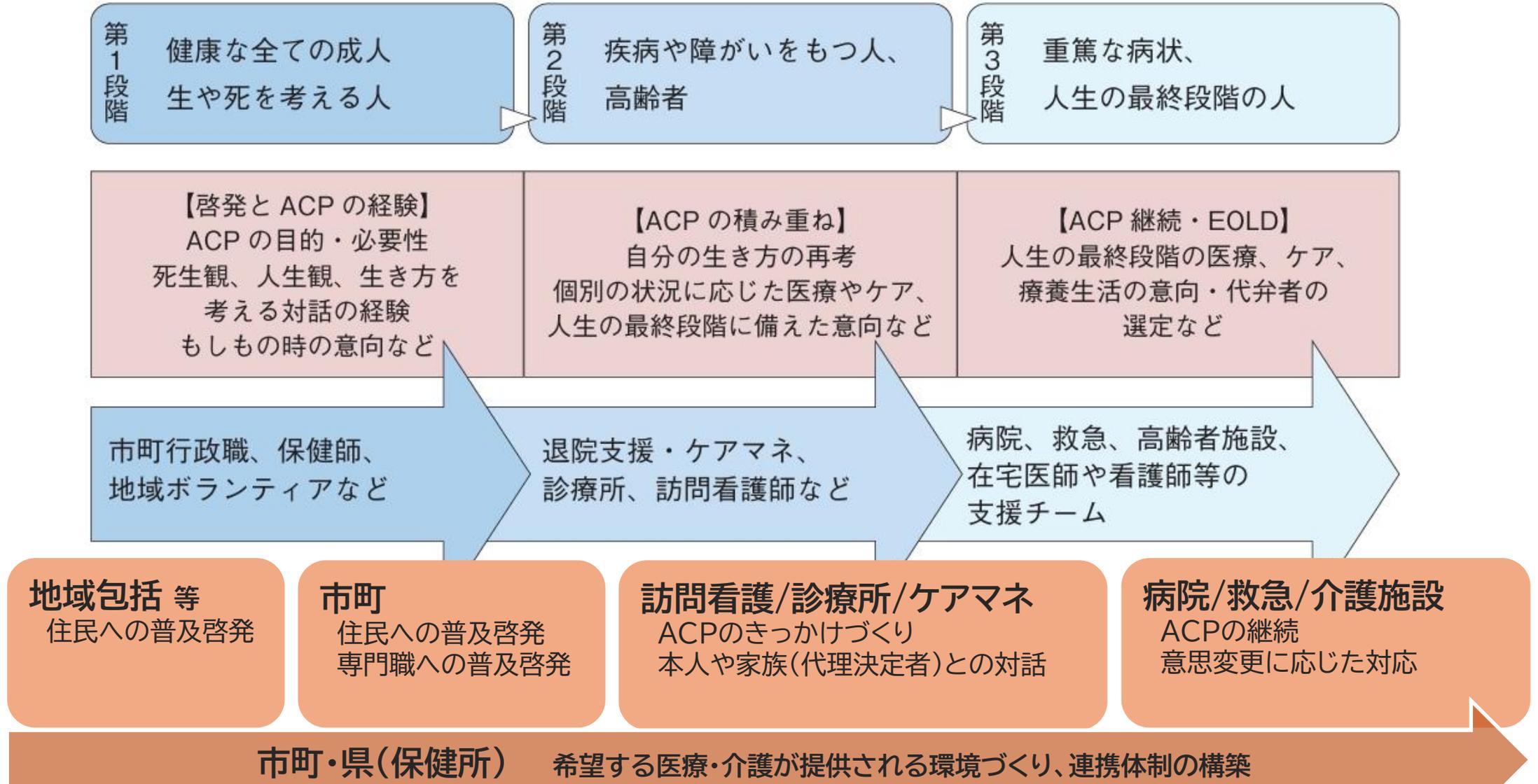
相談窓口の設置

研修会年2回

今後に向けて

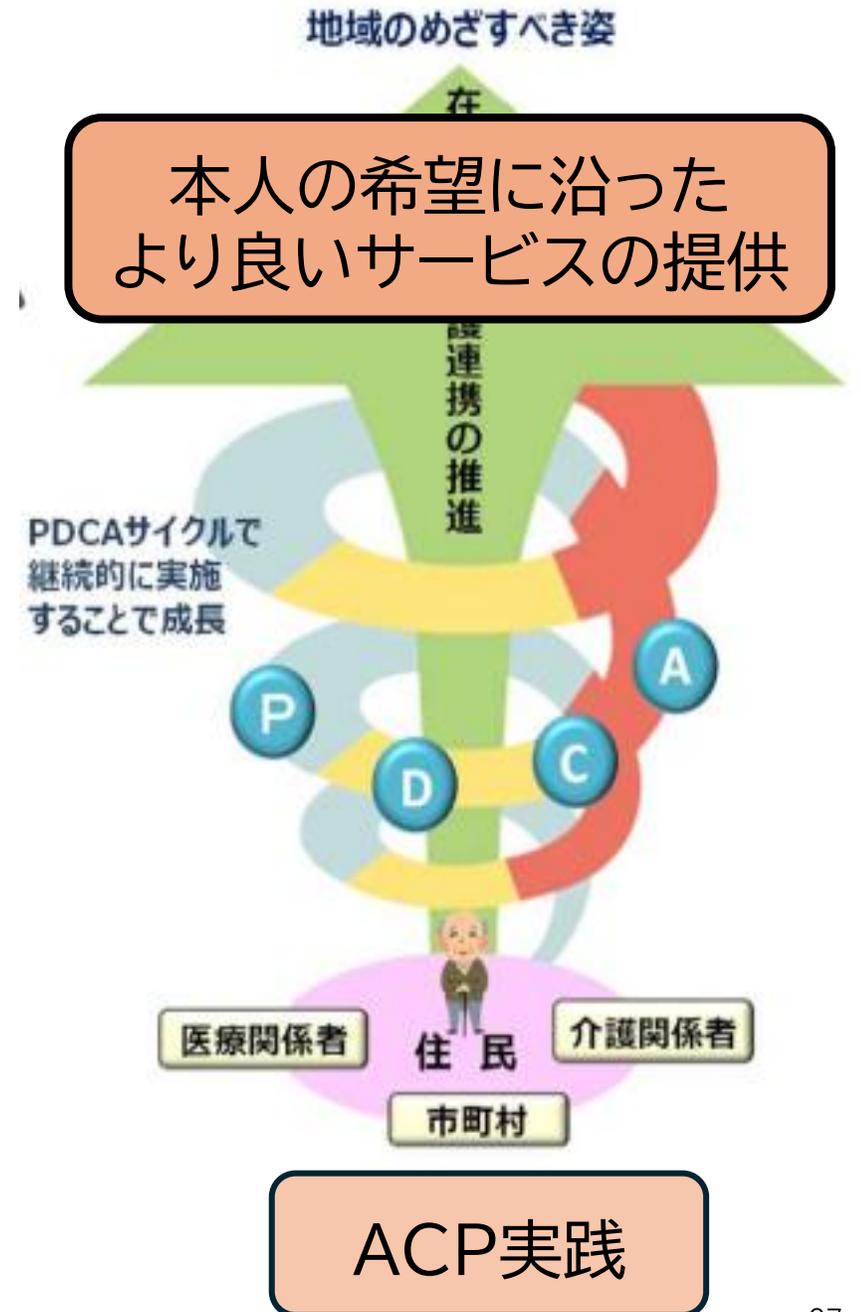
○各機関の役割の一例

図：健康段階別に繰り返されるACPの実践
(Aging&Health No.96 片山陽子「地域におけるACPの実践」より引用)



今後に向けて まとめ

- **普及啓発の継続**
住民・専門職のACP理解の促進
専門職が意思を汲み取る力を育てる
- **取組内容の共有** (現場レベル)
圏域内でACPに意欲的に取り組んでいる施設のACPの方法、好事例の紹介
- **市町の現状と課題の確認**
取組内容の共有
他圏域の好事例等を市町へ横展開



ご清聴ありがとうございました